

広島方言における準体助詞「ン・ノ・ノン」について

人文学部日本文化学科

2019（平成31）年入学

近藤晃弘

指導教員 平子達也 先生

2023（令和5）年1月提出

要旨

本論文は、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」を取り上げ、これらの使い分けについて記述する。灰谷（2010）によると、広島方言の「ノン」は（1）のように必ず打消しの「ン」に後接するという。

（1） 遊ばんン？ （遊ばないの？）

ただし、広島方言の準体助詞の形態的特徴に関してはこの原則以外は未整理であり、また、「ノン」以外の準体助詞「ン」「ノ」がどのような状況で使用されるのかなどについては言及されていない（灰谷 2010 : 36）。この広島方言の「ノン」のように、標準語の準体助詞「ノ」に相当する形式に関する研究として、野間（2014）による、大阪方言における準体助詞「ン・ノ・ノン」についての研究がある。野間によると、大阪方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」には、「準体用法」と「ノダ用法」があるが、基本的には「ン」が使われ、撥音の直後の場合に限って「ノ」及び「ノン」が使われるという。野間はこれを「準体助詞分布の原則」と呼ぶ。本論文では、この野間（2014）の大阪方言の準体助詞についての記述を参考にしながら、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の使い分けについて明らかにすべく、広島県在住の広島方言話者を対象にしたアンケート結果をもとに考察・分析を行う。本論文で明らかになったのは以下の3点である。

- ① 広島方言の「ノン」は、準体助詞の前の音が撥音になる「動詞・非過去・否定」の条件の時のみで使うことが可能である。これは、先行文献の記述のとおりである
- ② 広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」は、準体用法において「ノ」 > 「ン」 = 「ノン」の順に許容度が高く、ノダ用法においては「ノン（ただし、撥音に後接する時のみ）」 = 「ン」 > 「ノ」の順に許容度が高い。
- ③ 上記の②は、広島方言の「ノン」が撥音に後接する形でしか用いられないながらも、（少なくとも「ノ」に比べて）終助詞としての性質が強いことを示唆するものである（灰谷 2010）。これは、「ノン」が、「ン・ノ」よりも形式名詞としての性質が強く、準体用法でのみ非撥音に後接する形でも用いられる大阪方言（野間 2014 : 28）とは対照的である。

目次

1. はじめに	1
2. 先行研究	2
2. 1 広島方言の「ノン」	2
2. 2 大阪方言の「ン・ノ・ノン」	3
2. 3 先行研究の問題点と本論の方針	7
3. 調査概要	7
4. 調査結果	8
4. 1 ①前接する品詞	10
4. 2 ②テンス	10
4. 3 ③肯否	11
4. 4 ④2用法のどちらか	12
4. 5 調査結果のまとめと考察	13
4. 5. 1 調査結果のまとめ：広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の分布	13
4. 5. 2 広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の分布差の要因の考察	14
5. おわりに	16
参考文献	16
付録1 アンケートの例文 68 題	17
付録2 アンケートの各問題の票数	21

1 はじめに

広島方言をはじめ、近畿・中四国地方などの方言では、しばしば準体助詞「ノン」が現れる。(= (1))

(1) 遊ばんノン? (遊ばないの?)

この「ノン」のように、標準語の準体助詞「ノ」に相当する形式に関しては、野間(2014)による、大阪方言における準体助詞「ン・ノ・ノン」についての研究がある。野間(2014: 24)によると、大阪方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」には、「準体用法」と「ノダ用法」があるが、基本的には「ン」が使われ、撥音の直後の場合に限って「ノ」及び「ノン」が使われるという。野間はこれを「準体助詞分布の法則」と呼ぶ。

一方、広島方言¹における準体助詞については、灰谷(2010)の研究があるが、(1)のように「ノン」が必ず打消しの「ン」に後接するという以外は未整理であり、その他の準体助詞「ン」「ノ」がどのような状況で使用されるのかなどについては言及されていない(灰谷2010: 36も参照)。

本稿では、広島方言話者へのアンケート調査結果を元に、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の分布の違いにテンスや品詞および準体助詞としての用法の違いなどの条件が関わる可能性について、大阪方言との比較を通して考察した結果を示す。考察の結果、以下のことが明らかになった。

- ① 広島方言の「ノン」は、準体助詞の前の音が撥音になる「動詞・非過去・否定」の条件の時のみで使うことが可能である。
- ② 広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」は、準体用法において「ノ」>「ン」=「ノン」の順に許容度が高く、ノダ用法においては「ノン(ただし、撥音に後接する時のみ)」

¹ 本論文で対象とする「広島方言」とは広島県全域で話される方言のことである。当然、「広島方言」内にも地域差はあると考えられるが、神鳥(1998: 6)によれば広島県内は「細かい方言差は別にして、その県域内を大きく区画しなくてはならないような方言差の存しない地域である」という。また、本稿で扱う準体助詞の表れについても県内出身地の違いによる分布の差は認められなかった。以上を受けて、広島県全域で話される方言という意味で「広島方言」という用語を用いる。

= 「ン」 > 「ノ」 の順に許容度が高い。

- ③ 上記の②は、広島方言の「ノン」が撥音に後接する形でしか用いられないながらも、(少なくとも「ノ」に比べて) 終助詞としての性質が強いことを示唆するものである(灰谷 2010)。これは、「ノン」が、「ン・ノ」よりも形式名詞としての性質が強く、準体用法でのみ非撥音に後接する形でも用いられる大阪方言(野間 2014 : 28) とは対照的である。

本論文の構成は以下のとおりである。まず、2 節では先行研究についてまとめる。3 節では調査方法について述べた後、4 節では調査結果をまとめ、考察を行う。5 節は全体のまとめである。

2 先行研究

本節では、本論文で対象となる広島方言の準体助詞「ノン」に関する先行研究について述べるとともに、大阪方言の準体助詞に関する先行研究を取り上げ、本論文で明らかにしようとする問題を明確にする。

2.1 広島方言の「ノン」

灰谷 (2010) は、広島方言の「ノン」を「文末詞の「ノン」」と呼び、その形態的特徴と意味・機能的特徴に着目して考察している。灰谷 (2010) によると、広島方言の「ノン」は必ず打消しの助動詞「ン」に後接し、終助詞的に使われるという。つまり、「遊ぶノン?」「行くノン?」のような肯定形疑問には使えず、(2) のような打消し疑問の形で現れ、基本的には確認の意味を持つという。

(2) 行かんノン? (行かないの?)

このような確認の「ノン」は「行く」「食べる」のような生活場面に密着した動詞とともに用いられる傾向が強い。行為をすることが日常のルーティーンであり当たり前であるのに、相手がしていないとき、「勧奨」や「柔らかい命令」の意味をもって行動を促す表現になっている(灰谷 2010 : 34)。

また、「ノン」は「まだ」「なんで」等の副詞と呼応する傾向があり、叱責・詰問とい

った意味をもつことがあるという（灰谷 2010 : 31）。

(3) まだ終わらんノン? （まだ終わらないの?）

(4) なんで口きかんノン? （なんで口きかないの?）

さらに、「ノンジャ」「ノンヨ」の形で驚きや不如意な現実に対する嘆きを表すことができる（灰谷 2010 : 32）。

(5) 聞けんノンジャ （聞けないんだ）

(6) 電話つながらんノンヨ （電話つながらないのよ）

以上のように広島方言の「ノン」は様々な意味を表現できる。

一方、広島方言と同じ準体助詞「ノン」を持つことが知られる大阪方言においては、この後述べるように前接する述語の時制や動詞・形容詞といった接続する語の品詞などによって「ノン」が使えるか否かが異なり、また、「ノ」や「ン」といった他の準体助詞と分布差があることが明らかになっている（野間 2014）。後に述べるように、広島方言においても大阪方言と同じく準体助詞「ン・ノ・ノン」が存在するが、灰谷の研究では「ノ」や「ン」については触れられておらず、また、前接する述語の時制や動詞・形容詞といった接続する品詞との関連についても言及されていない。その意味で、灰谷の研究は「ノン」の性質を結論付けるのに必ずしも十分な調査が行われているとは言えない。

2.2 大阪方言の「ン・ノ・ノン」

日本語の「準体助詞」には、以下のような2種類のタイプがある（用例は野間 2014 : 25 より）。

(7) 私が勝ったのは辞書だ。 【モノ準体】

(8) 私が辞書を買ったのを知っているか。 【コト準体】

これらはそれぞれ異なる用法を持つもので、(7) のように特定の名詞の代わりをする代名詞として機能するものは「モノ準体」、(8) のように基本的に特定の名詞に置き換え

られず、直前までの部分を名詞節としてまとめる働きを持つものは「コト準体」と呼ばれる。両者をまとめて「準体用法」と呼ばれる（野間 2014：25）。

またこれらに対して、同じく準体助詞に由来するものとして以下のような表現がある（野間 2014：25）。

(9) 私が辞書を買ったのだ。 【ノダ】

(9) の「ノ」には「ダ」が後接しており、両者が組み合わさって 1 つのモダリティ形式を形成している。この「ノダ」はひとまとまりの形式として扱われ、その用法は「ノダ用法」と呼ばれる（野間 2014：25）。

野間（2014）は、上述のような標準語の準体助詞「ノ」に相当する形式として、大阪方言に「ン・ノ・ノン」の 3 つの形式があるとする（=10, 11, 12）。

(10) 昨日食べたンまだあった？

(11) いらんノ持ってくるな。

(12) もうちょっと大きいノンちょうだい。

野間によれば、これらの 3 形式はいずれも標準語の「ノ」に置き換えられるが、3 形式間でいつでも置き換え可能ではなく、これらの形式の使い分けには、先に示した 2 用法や、前接する品詞、肯否、テンスなどの条件が関わるという。例えば、準体助詞の前に来るのが《動詞》の《非過去・肯定》の形で、その用法が《準体用法》の場合であれば、(13) のように「ン」が最も自然であり、「ノ」は用いることができず、「ノン」も不自然であるとされる（野間 2014: 24）。

(13) なんでもええからある {ン/*ノ/?ノン} 持ってきて。

野間（2014）は、大阪方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の使い分けの基本ルールとして、大阪方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の中では、基本的に「ン」が選択され、撥音の直後の場合にのみ「ノ」及び「ノン」が使用されることを示し、これを「準体助詞分布の原則」と呼んだ。そして、この原則に前述の条件（準体助詞の用法、前接する品詞、肯否、

テンス)を重ねることで(表1)のような結果を示した。

(表1) 野間(2014)の内省による、大阪方言の「ン・ノ・ノン」の使い分け

動詞	過去				非過去					
	否定		肯定		否定		肯定		非否定のン ²	
	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ
ン			○	○	×	×	○	○	×	×
ノ			×	×	○	○	×	×	○	○
ノン			△	×	○	△	△	○ ³	○	○

形容詞	過去				非過去			
	否定		肯定		否定		肯定	
	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ
ン			○				△	
ノ			×				×	
ノン			×				○	

形容動詞	過去				非過去			
	否定		肯定		否定		肯定	
	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ
ン							○	
ノ							×	
ノン							×	

○…使える △…不自然だが使えないことはない ×…使えない
空白…記述なし

上記の表からも分かるように、野間(2014)は、「撥音の直後の場合にのみ「ノ」及び「ノン」が使用される」という「準体助詞分布の原則」に反して、「ノン」が非撥音の直後に接続する場合があるとしている。例えば(14)(15)のように形容詞の非過去形

² 大阪方言には準体助詞の直前が撥音になる状況が2通りあり、一つは広島方言にもある否定のン、もう一つが動詞非過去形の語尾の「ル」が「ン」になる、撥音便形に続く場合である。ここではこれを「非否定のン」とし、通常否定のンと区別する。(野間2014:26)

³ 大阪方言では動詞・非過去・肯定・ノダの条件の場合、平叙文か疑問文によって「ノン」の許容度が変わり、平叙文では×、疑問文では○となる。野間(2014:30)はこれらの現象を、「ノン」が終助詞的に使われているからだとして説明しており、同じく終助詞的に「ン」が用いられるといわれる(灰谷2010)広島方言と合わせ、今回は○を採用する。

に後接する場合がその一つの場合である（野間 2014: 28）。

(14) もうちょっと大きい {?ン/*ノ/ノン} ちょうだい。

(15) こんなに寒い {?ン/*ノ/ノン} 知らなかったわ。

野間（2014）は、（14）（15）のように非撥音の直後に接続するにもかかわらず「ノン」を使うことができる要因について、これらが全て「準体用法」であるということに着目し、「ノン」が「ン・ノ・ノン」の 3 形式の中で、形式名詞としての性質をより強く持っているためであるとした。つまり、「ノン」が文中で形式名詞として解釈できる場合であれば、「準体助詞分布の原則」よりも形式名詞としての性質の強さが優先され、「ノン」の使用が許容されるのである。

しかし、同じ準体用法であっても「ノン」が使えない例もある。例えば、（16）（17）のように形容詞の過去形に後接する場合は「ノン」を使うことはできない（野間 2014: 28）。

(16) こないだのあのおいしかった {ン/*ノ/*ノン} また食べたいわ。

(17) 前に来たときも寒かった {ン/*ノ/*ノン} 忘れてた。

ただ、これは述語の過去形に「ノン」が後接できないということではない。例えば、（18）（19）のように動詞の過去形に後接する場合は直前が過去形であっても使うことができる（野間 2014: 28）。

(18) 昨日買った {ン/*ノ/?ノン} まだ、あった？

(19) 私が辞書買った {ン/*ノ/?ノン} 知ってる？

（18）（19）の場合、「基本的に「ン」が選択され、撥音の直後の場合に「ノ」及び「ノン」が使用される」という「準体助詞分布の原則」が優先され、その結果「ン」が最も自然であるということになるという。一方で、「ノン」が不自然ながらも使用可能であるのは、「ン」や「ノ」に比べて形式名詞としての性質が強く、準体用法としての解釈に偏る傾向があるためだという（野間 2014: 28）。

以上から、大阪方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」は、「撥音の直後か否か」という基本的な条件がありながらも、その準体助詞の用法（「準体用法」か「ノダ用法」か）や、前接する語の品詞、肯否、テンスなどによって分布が異なるなどの複数の条件が、その分布に関係することが分かった。

後にも述べるように、広島方言の場合でも、準体助詞の用法、前接する品詞、肯否、テンスなどが準体助詞「ン・ノ・ノン」の分布に影響を与えると考えられ、この点では広島方言と大阪方言と同じである。しかし、大阪方言ではノンが使えるとされる「動詞・非過去・肯定」という環境において、広島方言ではノンが使えないなど、その分布には違いがあり、同じ「ン・ノ・ノン」を用いながらも、その使い分けのあり方は方言間で異なる。

2.3 先行研究の問題点と本論の方針

上述のとおり、広島方言と大阪方言とでは、同じ準体助詞「ン・ノ・ノン」を用いながらも、その使い分けのあり方には違いがあると考えられる。しかし、これまでの研究では、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」について、「ノン」が打消しの「ン」に必ず後接するという以外は未整理であり、特に「ノン」以外の「ン・ノ」がどのような場面・状況で使用されるのかについては明らかではない（灰谷 2010）。そこで本論では、広島方言話者を対象にアンケート調査を実施し、その結果を野間（2014）の研究による大阪方言における準体助詞「ン・ノ・ノン」の使い分けのあり方と照らし合わせることで、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の使い分けの条件等を明らかにしていくこととする。

3 調査概要

今回行った調査の対象者は、広島在住の広島方言話者 105 名である。うち男性が 48 名、女性が 57 名で、協力者の出身地は広島県内の全域に渡る。調査は Google form を用いたアンケート調査として行った。

既に述べたように、広島方言の準体助詞「ノン」は「確認」や「勸奨」「柔らかい命令」といった意味で使われることが多いが、広島方言を母語とする筆者の直感として、特にこれらの意味の違いによって準体助詞の使い分けがなされるとは考えられない。そのため、今回の調査では、前接する語の形態的な特徴と準体助詞の用法に着目し、①「前接する品詞」②「テンス」③「肯否」④「2 用法（準体用法とノダ用法）のどちらか」による使い分けのあり方を明らかにすることを目的とした。そのため、ノダ用法で使われる場合につ

いては、全て勸奨あるいは確認の意味の例文を用いた。

今回のアンケートでは、68個の例文を用意し、それぞれについて、「よく使うし、よく聞く」「たまにしか使わないが、よく聞く」「使うこともたまにあるし、聞いたこともある」「使わないけど、よく聞く」「使わないけど、聞いたことがある」「使わないし、聞いたこともない」の6つの選択肢から1つを選んでもらった。

これら68個の例文は、基本的に①前接する語の品詞は動詞か形容詞か形容動詞か、②そのテンスは過去か非過去か、③肯否はどちらか、④準体用法とノダ用法の2用法のどちらか、という4つの条件とともに、⑤「ン・ノ・ノン」のうちどれが含まれるかがコントロールされている。これらの例文についての許容度を調べることによって、それぞれの条件下（例えば①前接する語の品詞が動詞で、②テンスは過去で、③肯定形で、④準体用法であるという条件下）で、「ン・ノ・ノン」のいずれを含む例文が最も許容度が高いか、ということが明らかにできる。あるいは、「ン・ノ・ノン」のそれぞれについて、どのような場合に最も許容度が高くなるか、ということが分かる。なお、具体的な質問文とその条件は付録に記載する。

4 調査結果

大阪方言の（表1）に倣う形で、広島方言の準体助詞の使い分けに関して、そのアンケート結果をもとに（表2）を作成した。なお、（表2）では、許容度を○×△で表しているが、その意味するところは以下の通りである。

○：最高評価の「よく使うし、よく聞く」が全体の3分の2以上の71～105票ある場合

×：最低評価の「使わないし、聞いたこともない」が71～105票の場合

△：上記のどちらも当てはまらない場合は、「△」とした。

また、詳細なアンケートの結果は付録に記載する。

(表2) アンケート結果と筆者の内省による、広島方言の「ン・ノ・ノン」の使い分け

動詞	過去				非過去					
	否定		肯定		否定		肯定		非否定のン	
	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ
ン	△	○	△	○	×	×	△	○		
ノ	○	△	○	△	○	△	○	△		
ノン	×	×	×	×	△	○	×	×		

形容詞	過去				非過去			
	否定		肯定		否定		肯定	
	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ
ン	△	○	△	○	△	○	△	○
ノ	○	△	○	△	○	△	○	△
ノン	×	×	×	×	×	×	×	×

形容動詞	過去				非過去			
	否定		肯定		否定		肯定	
	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ	準体	ノダ
ン			△	○			△	○
ノ			○	△			○	△
ノン			×	×			×	×

今回のアンケート結果の中で特筆すべき規則性として、以下のことが指摘できる。まず、広島方言で違和感なく準体助詞の前の音が撥音になる状況は、「動詞・非過去・否定」の状況の時のみなのだが、表2を見るとその条件の時のみ「ノン」が許容され、それ以外の時は全く「ノン」が許容されなかった。さらに、「ノン」が許容されない条件の時はすべて、準体用法であれば「ン」が「△（不自然だが使えないことはない）」で、「ノ」が「○（使える）」という分布、ノダ用法であれば「ン」が「○（使える）」で、「ノ」が「△（不自然だが使えないことはない）」という分布となっていることが分かった。

以下では、この広島方言の（表2）と大阪方言の（表1）とを用い、①前接する語の品詞が動詞か形容詞か形容動詞か、②そのテンスは過去か非過去か、③肯否はどちらか、④準体用法とノダ用法の2用法のどちらか、という4つの観点別に、両方言における準体助詞の現れ方を比較し、広島方言の準体助詞それぞれの特徴を考察していく。

4.1 ①前接する品詞⁴

まず、前接する述語の品詞の違いによる差を見る。ここでは、特に広島方言と大阪方言との差が顕著であった「過去形・準体用法」における形容詞と動詞の分布差を取り上げる。

広島

10	形容詞	(△/○/×)	過去形	肯定	準体
5	動詞	(△/○/×)	過去形	肯定	準体

大阪

10	形容詞	(○/×/×)	過去形	肯定	準体
5	動詞	(○/×/△)	過去形	肯定	準体

広島方言では「広島方言のノンは必ず撥音の後に後接する」という制限が強く作用しており、「ノン」はその前が形容詞であれ、動詞であれ、肯定形の場合には一切許容されない。この「広島方言のノンは必ず撥音の後に後接する」という制限は、広島方言の準体助詞について、現在までに見つかっている唯一の形態的特徴であると言える。

このような広島方言の「ノン」の特徴は、大阪方言の「ノン」が、同じ過去形であっても前接する品詞が形容詞であれば許容されない一方、動詞であれば許容されるというのとは異なる。

4.2 ②テンス

次にテンスの差による違いを見る。ここでは、最も典型的な例として「動詞・肯定」の場合を取り上げ、ノダ用法の時の過去と非過去、準体用法の時の過去と非過去の4種類を比較していく。

⁴以下 ○/×/× などの表記は左から「ン」「ノ」「ノン」の許容度を示している。○が「使える」、△が「不自然だが使えないことはない」、×が「使えない」を示す。例えば「○/×/×」であれば、「ン」は「使える」が、「ノ」「ノン」は「使えない」ことを示す。

広島

4 過去 (○/△/×) 動詞 肯定 ノダ

3 非過去 (○/△/×) 動詞 肯定 ノダ

大阪

4 過去 (○/×/×) 動詞 肯定 ノダ

3 非過去 (○/×/○) 動詞 肯定 ノダ (ノンが、平叙と疑問で結果が異なる)

広島

5 過去 (△/○/×) 動詞 肯定 準体

6 非過去 (△/○/×) 動詞 肯定 準体

大阪

5 過去 (○/×/△) 動詞 肯定 準体

6 非過去 (○/×/△) 動詞 肯定 準体

ノダ用法の場合、広島方言では、述語が肯定形であれば前の音が撥音でないため、「ノン」は許容されず、「ン」が最も許容された。これは同じ条件の時、過去形では「ノン」が許容されず、非過去形(かつ疑問文)では「ノン」が許容される大阪方言と異なる特徴である。また、広島方言ではノダ用法を準体用法に変えると「ン」の許容度が多少落ちる。この点については、4.5.2で触れる。

4.3 ③肯否

次に肯否による違いを見る。ここでは広島方言と大阪方言の差が顕著であった「動詞・非過去」という条件について、肯定と否定の場合の分布差を取り上げる。

広島

6 肯定 (△/○/×) 動詞 非過去 準体

8 否定 (×/○/△) 動詞 非過去 準体

大阪

- 6 肯定 (○/×/△) 動詞 非過去 準体
- 8 否定 (×/○/○) 動詞 非過去 準体

広島

- 3 肯定 (○/△/×) 動詞 非過去 ノダ
- 1 否定 (×/△/○) 動詞 非過去 ノダ

大阪

- 3 肯定 (○/×/○) 動詞 非過去 ノダ (ノンが、平叙と疑問で結果が異なる)
- 1 否定 (×/○/△) 動詞 非過去 ノダ

広島方言は、肯定では前の音が撥音ではないため「ノン」が許容されず、「ノ」や「ン」が許容される結果となった。このような広島方言における準体助詞の分布は、「準体助詞分布の原則」によって、肯定の場合は「ン」が最も許容され、否定では「ノ」や「ノン」が許容されているという大阪方言のそれとは大きく異なっている。

4.4 ④ノダ用法と準体用法のどちらか

最後に、ノダ用法と準体用法の違いについて見る。前接する音が撥音であるときとそうでないときの場合を比較するため、「動詞・非過去」における肯定と否定の両方の場合をとり挙げる。

広島

- 8 準体 (×/○/△) 非過去 動詞 否定
- 1 ノダ (×/△/○) 非過去 動詞 否定

大阪

- 8 準体 (×/○/○) 非過去 動詞 否定
- 1 ノダ (×/○/△) 非過去 動詞 否定

広島

6 準体 (△/○/×) 非過去 動詞 肯定

3 ノダ (○/△/×) 非過去 動詞 肯定

大阪

6 準体 (○/×/△) 非過去 動詞 肯定

3 ノダ (○/×/○) 非過去 動詞 肯定 (ノンが、平叙と疑問で結果が異なる)

広島方言では「ノン」が許容される条件が「非過去・動詞・否定」の場合のみである。その中で8と1の例文を見てみると準体用法では△、ノダ用法では○となっており、ここに終助詞的な性質の強い広島方言の「ノン」の性格が出ていると考えられる(4.5.2も参照)。また、「ノン」が許容されない6と3の例文を見てみると、準体用法では「ン」が△、「ノ」が○となり、ノダ用法では「ン」が○、「ノ」が△となって用法によって許容度が入れ替わっている。この用法の違いによる「ン」と「ノ」の間の許容度の順位の逆転の背景については4.5.2で詳しく述べる。

4.5 調査結果のまとめと考察

4.5.1 調査結果のまとめ：広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の分布

以下では、以上の結果にもとづいて、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の分布について、ひとつずつ見ていく。

まず、「ン」だが、大阪方言では「準体助詞分布の原則」により、前の音が撥音でない限り「ン」が用いられていた。広島方言でも前の音が撥音である「動詞・非過去・否定」の場合を除けば「ン」の使用が許容はされる。ただ、「ン」はいつでも完全に許容されるわけではなく、ノダ用法では「○」であるのに対して準体用法では「△」と、用法の違いによって許容度に多少の差が生まれる結果となった。この「ノダ用法では「○」で、準体用法で「△」」という許容度の差は、用法以外の条件を変化させても不変の結果である。

次に「ノ」だが、大阪方言では撥音に後接しない限り用いられることはなかった。一方、広島方言では肯否関係なく、前の音が撥音でも非撥音でも「ノ」は許容される。また、大阪方言と違い、「ノ」に関しても「ン」と同様に用法間で許容度に差があり、ノダ用法では「△」であるのに対し準体用法では「○」であった。この「ノ」の用法間における許容

度の違いに関しても、「ン」の場合と同じく、用法以外の条件を変化させても不変の結果であった。注意すべきは、その用法間での許容度の差が「ン」と「ノ」とでは逆であることである。

最後に「ノン」だが、非撥音に後接する場合でも許容されることがある大阪方言と違い、広島方言では前の音が撥音になる「動詞・非過去・否定」の場合にのみ許容された。そのなかでもノダ用法では「○」だが、準体用法では「△」という差が見られた点が注目される。これは後述するように広島方言の「ノン」が終助詞的性格を持つことと関係があると考えられる（灰谷 2010 も参照）。

4.5.2 広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の分布差の要因の考察

次に、上記でまとめた広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の分布差の要因について考察する

まず、なぜ「ン」と「ノ」において、それらが準体用法で使われる場合とノダ用法で使われる場合とで許容度の差が生まれるのかを考える。筆者はこれを、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」には「形式名詞としての性質」と「終助詞としての性質」の 2 つがあり、その強弱の差が反映しているものだと考える。野間（2014：28）は大阪方言における「ノン」が、撥音の直後でなくても準体用法であれば使えることの原因を、「ノン」が「ン・ノ・ノン」の中でも形式名詞としての性質をより強く持っているからだとしている。これに対して、撥音の直後しか使えず、かつ準体用法では△（で、ノダ用法で○）の広島方言の「ノン」は形式名詞としての性質が、大阪方言のそれよりは弱いといえるだろう。形式名詞としての性質は弱い「ノン」であるが、その一方で、その終助詞としての性質は強いことが先行研究によって示唆されている（灰谷 2010 が、広島方言の「ノン」を「文末詞の「ノン」」と呼んでいたことも参照されたい）。

「ノン」にない形式名詞としての性質の強さは、「ン・ノ」のいずれかにあると考えられる。そして、「ン・ノ」を比べたとき、準体用法では「ノ」が○、「ン」が△となっていることから考えると、その形式名詞としての性質の強さは「ノ」が最も強いと考えられる。逆に、「ン・ノ」の持つ終助詞的な性質の相対的な強さについては、準体用法の場合とは違い、ノダ用法では「ノ」が△、「ン」が○となることから、「ン」の方が「ノ」よりも終助詞としての性質が強いものと考えられる。

次に「ノン」と「ン」の関係性について考察したい。上述のように「ン」と「ノ」は

「ノン」が使えない条件において、その性質の違いから 2 用法でそれぞれ役割を果たしているため、「ン・ノ・ノン」は「ノン」と「ン・ノ」に分かれて見える。しかし、この 3 つの準体助詞を分けるとすれば、「ン・ノン」と「ノ」となると思われる。これまでも見てきた通り、広島方言において「ノン」があらわれるのは「動詞・非過去・否定」の場合のみであるが、用法間で許容度に差があり、ノダ用法では○、準体用法では△である。一方、「動詞・非過去・否定」以外の条件の場合において、ノダ用法で○、準体用法で△という「ノン」と同じ分布を示しているのは、例外なく「ン」である。つまり、準体助詞の性質という観点でいえば、「ン」と「ノン」とは、撥音の後ろに現れるか否かという点を除けば同じであると言える。

以上まとめれば、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」の中で、形式名詞の性質が強いのは「ノ」、終助詞の性質が強いのは「ン・ノン」と言える。そして、「ン・ノン」はその中でも前接する音が撥音の時は「ノン」、前接する音が非撥音の時は「ン」と、順位をつけるのではなく役割のすみ分けをしていると考えられる。

このことを図示すれば、以下のように示せるだろう⁵。

形式名詞としての性質の強さ→「ノ」 > 「ン」 = 「ノン」

終助詞としての性質の強さ→「ノン（撥音に後接の時のみ）」 = 「ン」 > 「ノ」

従来、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」については、灰谷（2010）の指摘した「ノン」が撥音のンに後接する形でしか使うことができないということだけがあきらかであった。しかし、本研究で行ったアンケート調査の結果、これらの準体助詞「ン・ノ・ノン」に、準体用法とノダ用法という 2 つの用法の違いによって許容度に差があることが新たに明らかとなった。そして、考察の結果、その用法間における許容度の差の背景には、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」のもつ「形式名詞としての性質」と「終助詞としての性質」という 2 つの性質の違いがあることが分かった。つまり、その使用実態からすると、「ノン」は終助詞的性質がより強く、「ノ」は形式名詞的性質がより強いと考えられる。また、「ン」は「ノ」よりも形式名詞的性質が弱く、終助詞的性質が強い。そして

⁵ 広島方言の準体助詞がこのような分布になったことに関しては、本来的に形式名詞性が強かった「ノン」が、終助詞のように使われることが増えたことで形式名詞性が弱まったことが考えられるが、あくまで推測の域をでない。

「ン」と「ノン」は終助詞的性質、形式名詞的性質ともに「ノン」とほぼ同等の性質の強さを持ち、前接する音が撥音か否かによってすみ分けているのである。

5 おわりに

本稿では、広島方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」について、同じく標準語の準体助詞「ノ」に相当する形式である大阪方言の準体助詞「ン・ノ・ノン」と比較しながら、広島方言の「ノン」についての先行研究（灰谷 2010）において検証・補足しつつ、その使い方や条件について調査・考察した。

結果として広島方言の「ノン」が撥音に後接する形でのみ用いられるという、従来明らかになっていた事実（灰谷 2010）の正しさを確認することができた。また広島方言の「ン・ノ・ノン」の使い分けに関しては、それぞれの準体助詞が持つ形式名詞としての性質と、終助詞としての性質の2つの性質の差を見出し、「ノン」の終助詞的性質の強さと「ノ」の形式名詞的性質の強さ、同じ性質を持つ「ン」と「ノン」の、前接する音が撥音か否かという条件によるすみ分け、このようなそれぞれの性質により、準体助詞の選択に順位が関係することを指摘した。

しかし積み残した部分もある。本稿のアンケートの対象は前述のとおり広島在住の広島方言話者であるが、年齢・性別に関しては特定の縛りは求めなかった。「ノン」の意味的特徴について研究した灰谷（2010：35）は広島方言で頻繁に用いられる「マダ〜ノン」の表現について「母から子への叱責の場面にあらわれがち」だと説明しているが、このような男女差や世代差に関しては今回説明ができていない。男女差や世代差に注目した詳細な調査が今後は必要だろう。

【参考文献】

神鳥武彦（1998）『広島県のことば』明治書院。

野間純平（2014）「大阪方言における準体助詞ン・ノ・ノン：ノンの分布の中心に」

『阪大社会言語学研究ノート』12：23-36。

灰谷謙二（2010）「広島方言における文末詞「ノン」」『尾道大学日本文学論叢』第6号, 27-37.

【付録1】 アンケートの例文 68題

○ 動詞 8パターン

1 動詞 非過去 否定 ノダ

お前は 遊ばん ノン? (あなたは遊ばないの?)

お前は 遊ばん ノ?

お前は 遊ばん ン?

2 動詞 過去 否定 ノダ

昨日は 遊ばんかった ノン? (昨日は遊ばなかったの?)

昨日は 遊ばんかった ノ?

昨日は 遊ばんかった ン?

3 動詞 非過去 肯定 ノダ

今日は 遊ぶ ノン? (今日は遊ぶの?)

今日は 遊ぶ ノ?

今日は 遊ぶ ン?

4 動詞 過去 肯定 ノダ

昨日は 遊んだ ノン? (昨日は遊んだの?)

昨日は 遊んだ ノ?

昨日は 遊んだ ン?

5 動詞 過去 肯定 準体

昨日 お祭り やっとった ノン 知らん? (昨日お祭りがやっていたことを知らない?)

昨日 お祭り やっとった ノ 知らん?

昨日 お祭り やっとった ン 知らん?

6 動詞 非過去 肯定 準体

今日 お祭り やる ノ 知つとる？ (今日お祭りがあること知っているか?)

今日 お祭り やる ノ 知つとる？

今日 お祭り やる シ 知つとる？

7 動詞 過去 否定 準体

去年 お祭り やらんかった ノ 知つとる？ (去年お祭りをやらなかったのを知っているか?)

去年 お祭り やらんかった ノ 知つとる？

去年 お祭り やらんかった シ 知つとる？

8 動詞 非過去 否定 準体

明日 お祭り やらん ノ 知つとる？ (明日お祭りをやらないの知っているか?)

明日 お祭り やらん ノ 知つとる？

明日 お祭り やらん シ 知つとる？

○ 形容詞 8パターン

9 形容詞 非過去 肯定 準体

名古屋は 広島より 暑い ノ 知つとる？ (名古屋は広島よりも暑いことを知っているか?)

名古屋は 広島より 暑い ノ 知つとる？

名古屋は 広島より 暑い シ 知つとる？

10 形容詞 過去 肯定 準体

東京が えらい 暑かった ノ 忘れられんわ。(東京がとても暑かったのが忘れられない。)

東京が えらい 暑かった ノ 忘れられんわ。

東京が えらい 暑かった ン 忘れられんわ。

11 形容詞 非過去 否定 準体

広島は 名古屋より 暑くない ノン 知っとる？ (広島は名古屋より暑くないことを知っているか？)

広島は 名古屋より 暑くない ノ 知っとる？

広島は 名古屋より 暑くない ン 知っとる？

12 形容詞 過去 否定 準体

あんまり 暑くなかった ノン を覚えとる。(あまり暑くなかったのを覚えています。)

あんまり 暑くなかった ノ を覚えとる。

あんまり 暑くなかった ン を覚えとる。

13 形容詞 非過去 肯定 ノダ

外は 暑い ノン？ (外は暑いのか？) 〈外から家に入ってきた人に対して、外の気温を聞くとき〉

外は 暑い ノ？

外は 暑い ン？

14 形容詞 過去 肯定 ノダ

沖縄は 暑かった ノン？ (沖縄は暑かったのか？) 〈沖縄旅行から帰ってきた人に対して〉

沖縄は 暑かった ノ？

沖縄は 暑かった ン？

15 形容詞 非過去 否定 ノダ

あんまり 暑くない ノン？ (あまり暑くないのか？)

あんまり 暑くない ノ？

あんまり 暑くない ン？

16 形容詞 過去 否定 ノダ

沖縄は 暑くなかった ノン? (沖縄は暑くなかったのか?)

沖縄は 暑くなかった ノ?

沖縄は 暑くなかった ン?

○ 形容動詞 4パターン

17 形容動詞 非過去 肯定 準体

もうちいと きれいな ノン が欲しい。(もう少しきれいな物が欲しいです。)

もうちいと きれいな ノ が欲しい

もうちいと きれいな ン が欲しい

18 形容動詞 過去 肯定 準体

沖縄の 海が きれいじゃった ノン が忘れられん。(沖縄の海がきれいだったことが忘れられない。)

沖縄の 海が きれいじゃった ノ が忘れられん。

沖縄の 海が きれいじゃった ン が忘れられん。

19 形容動詞 非過去 肯定 ノダ

あなたの部屋は きれいな ノン? (あなたの部屋はきれいなのか?)

あなたの部屋は きれいな ノ?

あなたの部屋は きれいな ン?

20 形容動詞 過去 肯定 ノダ

沖縄の海は きれいじゃった ノン? (沖縄の海はきれいだったのか?)

沖縄の海は きれいじゃった ノ?

沖縄の海は きれいじゃった ン?

○ ノデ ノニ

21 ノデ

用事ある ノン で帰ります。 (用事があるので帰ります。)

用事ある ノ で帰ります。

用事ある ン で帰ります。

用事あるで帰ります。

22 ノニ

用事ない ノン に来た。 (用事がないのに来た。)

用事ない ノ に来た。

用事ない ン に来た。

用事ないに来た。

【付録2】アンケート各問題の票数

- a よく使うし、よく聞く
- b たまにしか使わないが、よく聞く
- c 使うこともたまにあるし、聞いたこともある
- d 使わないけど、よく聞く
- e 使わないけど、聞いたことがある
- f 使わないし、聞いたこともない

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
1-3	ン	29	6	7	0	7	56
1-2	ノ	54	19	11	11	9	1
1-1	ノン	85	10	7	1	0	2

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
2-6	ン	96	4	4	0	1	0
2-5	ノ	30	8	15	8	27	17
2-4	ノン	4	0	4	0	8	89

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
3-9	ン	98	2	4	1	0	0
3-8	ノ	34	14	22	12	17	6
3-7	ノン	1	2	1	1	6	94

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
4-12	ン	92	4	6	1	1	1
4-11	ノ	34	13	25	10	15	8
4-10	ノン	1	1	0	0	11	92

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
5-15	ン	54	9	14	4	11	13
5-14	ノ	84	8	7	2	2	2
5-13	ノン	8	2	10	2	9	74

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
6-18	ン	44	16	16	4	12	13
6-17	ノ	81	10	7	0	5	2
6-16	ノン	4	7	5	1	11	77

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
7-21	ン	54	13	13	1	18	6
7-20	ノ	79	7	9	1	7	2
7-19	ノン	10	2	10	3	7	73

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
8-24	ン	1	0	1	0	4	99
8-23	ノ	76	14	7	3	2	3
8-22	ノン	44	3	11	2	13	32

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
9-27	ン	37	10	14	6	19	19
9-26	ノ	84	7	9	0	5	0
9-25	ノン	11	5	7	0	10	72

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
10-30	ン	47	16	13	4	14	11
10-29	ノ	75	9	11	1	6	3
10-28	ノン	6	2	4	2	11	80

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
11-33	ン	37	14	15	0	18	21
11-32	ノ	80	10	8	0	7	0
11-31	ノン	7	7	4	1	9	77

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
12-36	ン	39	14	11	5	20	16
12-35	ノ	76	9	8	2	7	3
12-34	ノン	13	4	4	0	7	77

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
13-39	ン	92	4	2	2	4	1
13-38	ノ	44	17	14	9	16	5
13-37	ノン	1	2	2	3	3	94

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
14-42	ン	90	6	3	0	4	2
14-41	ノ	43	18	15	5	15	9
14-40	ノン	1	2	1	1	5	95

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
15-45	ン	91	7	4	0	1	2
15-44	ノ	45	15	20	3	14	8
15-43	ノン	2	2	6	0	10	85

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
16-48	ン	87	7	7	1	1	2
16-47	ノ	46	16	19	6	13	5
16-46	ノン	0	1	8	1	10	85

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
17-51	ン	59	11	9	2	10	14
17-50	ノ	77	5	13	0	5	5
17-49	ノン	2	4	6	2	14	77

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
18-54	ン	55	14	8	13	8	7
18-53	ノ	63	15	9	5	7	6
18-52	ノン	4	3	6	3	11	78

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
19-57	ン	87	6	7	3	0	2
19-56	ノ	40	10	21	3	19	12
19-55	ノン	1	1	0	0	7	96

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
20-60	ン	84	8	3	3	5	2
20-59	ノ	30	14	18	4	16	23
20-58	ノン	1	1	1	0	7	95

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
21-63	ン	81	9	4	4	3	4
21-62	ノ	76	6	13	3	3	4
21-61	ノン	0	0	1	1	5	98
21-64	デ	6	1	3	0	12	83

	準体助詞	a	b	c	d	e	f
22-67	ン	8	5	10	3	21	58
22-66	ノ	83	8	4	2	4	4
22-65	ノン	3	0	3	0	7	92
22-68	ニ	1	1	2	2	4	95